

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

川内北小学校  
「学力向上実行プラン」

- 自分と相手の思いや考えを大切に、主体的に表現できる児童の育成
- 自ら課題を見出し、学習に取り組む力を育む授業の実践

学力向上推進員 川邊 晃	委員 教頭:井上博子・阿部恭典 研修主任:谷川智彦 学力向上担当:四宮範子・瀬川茂美・武市仁美・近藤恭子・森康二・白鳥美香・杉本知美・長谷部貴子
-----------------	--

校長  
麻植 稔夫

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ●基本的な学習習慣が身に付いていない児童がいる。 ●学力に個人差がみられる。語彙力が低く、問題を読み取る力や書く力が低い。	・学年の実態に応じた読み・書き・計算の基礎的・基本的な力を身に付けることができる。 ・書かれた言葉や文から、自分や相手の思いや考えを発表したり、書いたりすることができる。	・学年始めに学習規律の徹底を図る。児童の実態に沿って、見通しがもてる学習内容を心掛け、学んだ内容が分かるノート指導を充実させる。 ・書かれてある内容や、要点にアンダーラインを引いたり、考えをノートに書いたりして読み取る力や語彙力を高める。	・「聴く」姿勢、態度に重点を置くとともに、学習準備の徹底を図る。	・学習内容を丁寧に書くことができる児童が増えてきたが、まだ十分とは言えない。 ・自主的にアンダーラインを引く児童が増えてきているが、自分なりの考えを書いたり、深く読み取ったりする力は不十分と言える。	・児童の実態、発達段階に応じて規律を設定し、共通理解をした上で指導を徹底する。 ・自分なりの考えを書き加えたり、大事なことにアンダーラインを引いたりして、ノート指導の充実を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○見通しのつく課題には真面目に取り組む児童が多い。また、自分の考えを積極的に発言したり、書いたりする児童が増えてきている。 ●筋道を立てて文章を表現したり、既習事項から情報を選択し、説明したり書いたりすることに課題がある。	・自分の意見を積極的に発言できる。また、相手の意見を受け入れることができる。 ・話し合い活動を通して、自分の意見や相手の意見を明確にしたり、新しい考えを出し合ったりすることができる。	・「川北スタンダード・授業編」を実践し、発表のルールを定着させる。 ・タブレット端末を使用し、友達の意見を交換したり、理由を共有したりすることができるように効果的に利用する。	・授業での児童のつぶやき等、考えや思いをさらに共有できる時間を増やしていく。ヒントカードなどを出して、児童が発表しやすい授業づくりを実践していく。 ・タブレット端末の積極的活用を図る。	・活発に意見を発表する児童が増えてきたが、お互いの考えを共有したり、発展させたりするのは難しい。 ・タブレット端末を積極的に活用しているが、ソフト・ハード面ともに不具合が多い為、学習活動が途切れたり、考えの共有ができなかったりする場面があり、効果的な活用とまでは至らなかった。	・児童が自主的に意見を発表しやすい環境づくりとして、ペアワークやグループ活動など、小グループ単位の活動を取り入れていく。 ・学習に応じて効果的にタブレットを活用できるように単元計画の見直しや、教材研究の充実を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には一生懸命取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見つけたり、課題解決に向けて主体的に取り組んだりすることに苦手意識がある児童が多い。	・相手の意見や考えを認めたり、感想を発表したりする時間を設け、互いのよさを共有できる。 ・グループ活動や話し合い活動を通して、課題に向き合う方法を考えることができる。	・「川北スタンダード・学習規律編」ができていくか週のめあてとして意識づける。 ・児童が主体的に活動できるように、めあてや目的を明確にした授業内容を計画していく。	・発表の仕方や聴き方の指導を徹底する。	・活発に発表する姿が見られるが、お互いに意見を共有するといった点においては不十分である。 ・グループ活動や話し合い活動に取り組んでいるが、内容の充実には至っていない。	・児童が主体的に活動できるように、教材研究や発問の工夫など授業改善に取り組む。 ・グループ活動や話し合い活動の積極的な活用を今後とも継続して取り組む。

令和5年度 学力向上ロードマップ

